

## 桐生市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

視察都市	三重県 いなべ市
視察日時	令和 5 年 11 月 1 日 (水) 13 時 50 分 ~ 15 時 10 分
訪問先	いなべ市役所 〒511-0011 いなべ市北勢町阿下喜 31 Tel. 0594-86-7848
参加者	辻正男 渡辺恒 北川久人 久保田裕一 丹羽孝志 河原井始 石渡宏明
視察項目	タブレットを使用した議会運営について

### ■ いなべ市の概要:

岐阜県、滋賀県に接する三重県最北端に位置する。

面積 219.83km<sup>2</sup> (境界未定部分あり)、総人口 44,832 人 (2023 年 8 月 1 日)、  
19,249 世帯、(内外国人 2,326 人、1,548 世帯)、人口密度 202 人/km<sup>2</sup>、  
65 歳以上人口割合 27.8% <https://www.city.inabe.mie.jp/>

市長: 日沖靖、議長 小川幹則、議員定数: 18 名



市の機構として、分庁方式を採用。企画・総務部は員弁庁舎 (旧員弁町役場)、市民・水道部は北勢庁舎 (旧北勢町役場)、福祉部と議会・議会事務局は大安庁舎 (旧大安町役場)、農林商工・建設部は藤原庁舎 (旧藤原町役場) に分け、2003 年 12 月の合併直後は、旧町役場の機能を残す「支所方式」で出発し、その 5 ヶ月後いずれの部署の業務も受け付ける「総合窓口課」を各 4 庁舎に設置。2017 年 2 月、北勢町に新庁舎建設を開始し 2019 年 5 月 7 日新庁舎が開庁、4 庁舎の機能を新庁舎に集約した。

市の中央に員弁川（いなべがわ）が流れ、旧員弁郡の「員弁」という漢字が難読であることから、平仮名の市名が採用されたともされているが、元々の由来は物部氏の支流とされる猪名部氏が居住していたこととされている。

### いなべ市の特徴:

- ① 新庁舎とにぎわいの森がオープン（2019年5月）
- ② 「グリーンクリエイティブいなべ」をコンセプトとするまちづくりが、SDGs 未来都市 2020 および東海地区で初となる自治体 SDGs モデル事業として選定（2020年7月）
- ③ 「山辺」エリアにアウトドア・フィールドを広域開発

### いなべ市の行政運営:

- ① 一般会計歳出決算額 257 億円（令和3年度決算）
- ② 財政力指数 0.83（令和3年度決算）
- ③ 職員数 359 名（令和5年4月1日）… フルタイム職員（再任用含む）

#### 歓迎 桐生市議会 議会運営委員会様

### プロフィール

平成15年12月1日、員弁郡4町が合併して誕生  
 【面積】 約220km<sup>2</sup>  
 【総人口】 44,832人(R5.8.1現在)  
 (内外国人2,326人、1,548世帯)  
 【世帯数】 19,249世帯(R5.8.1現在)  
 【65歳人口割合】 27.8%(R5.8.1現在)

### いなべ市の特徴

1. 新庁舎とにぎわいの森がオープン(R元年5月)  
まちづくりの拠点として、市内外から多くの来訪者があります。その中でつながりが生まれ、新たなまちづくりや、取組が創造されています。
2. グリーンクリエイティブいなべをコンセプトとするまちづくりが、SDGs未来都市2020及び東海地区で初となる自治体SDGsモデル事業選定(R2年7月)
3. 「山辺」エリアにアウトドア・フィールドを広域開発  
人気の青川峡キャンプパークや、犬と一緒にキャンプができる「やまてらす」、北欧有名ブランド「ノルディスク」と連携した宇賀溪キャンプ場 など



### 行政経営

一般会計歳出決算額	257億円(R3年度決算)
財政力指数	0.83(R3年度決算)
職員数	359名(R5.4.1)
	フルタイム職員※再任用含む

### 特徴的事業

1. 「グリーンクリエイティブいなべ」事業  
市役所併設のナチュラル系コンパクト商業施設にぎわいの森を拠点に、SDGs目標でまちづく事業を体系化。地域資源を磨いて活用する。
2. ふるさと納税制度による休眠楽器寄付受入事業  

3. 外部人材活用事業  
・地域おこし協力隊事業 隊員数18名(R4.4.1)  
・地域活性化起業人 19名(R4.4.1)
4. いなべブランド事業  
市のブランド力を発信できる魅力的な行政サービスを「いなべブランド」としてまとめ、毎年冊子化している。
5. 広域連携事業  
・定住自立圏構想 H22年度～  
・滋賀県東近江市との県境をまたいでの連携

### トピックス

#### 地域との連携

1. 県立いなべ総合学園高校と多方面での連携  
 美術部や放送部、演劇部などの番さんと一緒に作品制作、展示、ナレーション収録などで多数コラボレーションの実績あり。
2. フェアトレードタウンに認定(全国で6番目、県で初)  
令和元年9月、いなべ市は日本で6番目のフェアトレードタウンに認定された。  

3. 妄想会議 定期開催  
いなべ市について気軽に話し合える場として「妄想会議」を継続開催している。  


#### 令和時代の施策

1. ダイハツと連携した軽トラ屋台の開発  
 
2. 北欧有名アウトドアブランド「ノルディスク」との連携  
北欧有名ブランド「ノルディスク」と連携した宇賀溪キャンプ場がオープン!  


↑ いなべ市の概要・トピックスについて

## ■ 視察内容①: にぎわいの森

- ◎ いなべ市では平成 31 年 3 月に新庁舎が完成。その新庁舎に隣接をして令和元年 5 月にいなべ市のまちづくり拠点「にぎわいの森」をオープン
- ◎ 単なる誘客の為の商業施設ではなく、農業振興や生産・就農促進、商業・観光振興、市民協働の促進など、まちづくり、ひとづくりの官民連携拠点として位置付けている
- ◎ 施設内には市内からの飲食、物販店、農業法人などが参画、いなべ市が誇る有機野菜等をふんだんに用いたデリプレートを楽しむことができる



## ■ 視察内容②: 「タブレットを使用した議会運営について」

- ◎ 面談者:  
 いなべ市議会 小川 幹則 議長  
 いなべ市議会 片山 秀樹 副議長  
 いなべ市議会 市川 久春 事務局長



- ◎ いなべ市が ICT を活用するのは:
  1. 議決機関としての機能 ⇒ 令和 6 年度以降の取組み
    - ・オンライン会議 → 会議規則・委員会条例の改正
    - ・タブレット端末による採決（表決） → 会議規則の改正
 新型インフルエンザ（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大や災害時などにより、会議室へ一同が会することが困難になった場合にも議会機能を停滞させないために必要な機能

2. 議会活動としての機能 ⇒ 現在取り組んでいるのはこれ！

- ・ペーパーレス
- ・情報共有
- ・日程調整
- ・合意形成、etc

日常の議会活動を円滑かつ効率的に進めるために必要な機能

### 【事前質疑への回答】

Q タブレット導入までの経緯について

A 導入当初の経過

平成 29 年 08 月 ICT 化の推進について協議開始

平成 29 年 10 月 「いなべ市議会情報通信技術 (ICT) 推進基本計画」策定

平成 30 年 03 月 予算計上 3,904 千円、決算額 2,732 千円

→ タブレット端末 (iPad Pro 64GB WiFi モデル) 20 台

(議員 18 台+ 事務局 2 台)

→ その他周辺機器 (iPad Pencil、保護カバー、収納保管庫等

※ システムは既に執行部で導入の「ペーパーレス会議システム」を使用

平成 30 年 08 月 タブレット端末を調達

平成 30 年 09 月 全議員へ貸与し「ペーパーレス会議システム」操作研修

平成 30 年 12 月 第 4 回いなべ市議会定例会から運用開始

平成 31 年 02 月 「タブレット端末使用基準」を策定

※ 以降、タブレット端末を運用しながら、課題・改善点について協議

### 令和 2 年度の取組み

令和 02 年 03 月 予算計上 3,694 千円、決算額 895 千円

→ タブレット端末 (iPad Pro64GB SIM モデル) 20 台

→ ペーパーレス会議システム使用料、議会グループウェア構築

令和 02 年 05 月 新型コロナウイルス感染拡大により、教育現場のオン

ライン化が最優先となり、議会として新たにタブレット端末を調達

することを中止。SIM 機能を補完するため、ポケット WiFi を調達する

ことに決定

令和 02 年 08 月 ペーパーレス会議システム (SideBooks) の導入、

SideBooks 操作研修

→ 初期設定料 80,000 円、月額基本料 10,000 円/月

→ ポケット WiFi (モバイルルーター) の借り上げ

2,200 円 x 18 台 x 12 ヶ月 (1/2 政務活動費)

令和 02 年 09 月 第 3 回いなべ市議会定例会から SideBooks 運用開始  
令和 02 年 10 月 議会グループウェアの運用開始、操作研修  
→ Garoon (サイボウズ) システム使用料一式 125,400 円/年

Q 導入後の効果と課題について

A 効果:

- ・ 情報伝達、共有、議員間調整が迅速に
- ・ 資料準備がスムーズに
- ・ ペーパーレス効果

課題:

- ・ オンライン会議環境整備 → 自宅が WiFi 環境にない議員
- ・ タブレット端末による採決 (表決) → タブレット端末の誤操作
- ・ コストがかかる各種システム導入に関する費用対効果の検証
- ・ 庁内での電波が悪く多くのルーター設置が必要

Q タブレット等の ICT 機器に不慣れな議員への対応について

A 議会事務局で個別対応

あえて、議決に関係する資料はペーパーレス化せず (ここはこだわり)  
→ タブレットが使えないなら「ダメ」というような環境にはしない  
期日までに既読確認ができない議員へは電話連絡

Q 市当局と議会側は IT 化を通して、どの程度の共有化が図られているのか

A 本会議および委員会に関する資料

Q タブレット使用に係る詳細について

- ・ タブレットの仕様
- ・ 導入費用や月々の費用負担
- ・ 電子会議システム (ペーパーレス会議ソフト) の仕様
- ・ タブレット端末の貸与及び運用規定の有無

A 先述「タブレット導入までの経緯」のとおり

Q オンライン会議を導入可能とする関係例規等の改正の有無

A 令和 5 年 12 月以降の議会運営委員会において協議  
複数のアプリはインストール済、運用の検証中



- Q いなべ市地域情報化計画（いなべ市 DX 推進計画）に関連する議会運営効率化への進捗状況について
- A 議会事務局職員が「情報化推進委員会（地域情報化策定委員会）」に参加  
データによる公文書管理（法務情報化主導による）  
Logo フォームを活用した市民意見の聴取  
今後電子化を協議する事項 …  
陳情や要望等の提出、議員欠席届、資料請求申請、など

### 【当日質疑への回答】

- Q 「ペーパーレス会議システム」と「グループウェア」の棲み分けは？  
また両者の同期・連携状況は？（久保田委員）
- A 議会で導入した「ペーパーレス会議システム」(SideBooks) と当局が元々導入をしていたシステムは異なっており、それぞれに管理者権限が与えられている。尚、後発導入の SideBooks では 50 端末まで付与されているライセンスがあり、その余剰分を議会事務局側と共有している状況。また「グループウェア」については Garoon（サイボウズ）を導入、議会全体のスケジュール管理・共有をこのツールを用いて行っている。両ツールの同期・連携は行えず、それぞれで操作を行っているが、特に不便は感じていない。
- Q 新しい庁舎建設にあたり、議場の ICT 化について特に留意をした点や行ってにおいて「良かった」、と思えたような事例がもしあれば？
- A いなべ市はまず「議会活動としての機能」を進めることにこれまで取り組んできた。その後のステップとして「議決機関としての機能」について、令和 6 年度以降、以下を進めていく。
- ・オンライン会議 → 会議規則・委員会条例の改正
  - ・タブレット端末による採決（表決） → 会議規則の改正
- 特に留意をした点については即座に回答できるものはなく、臨機応変にその都度乗り切ってきたのが実情。
- Q 当局と議会でシステムが異なるメリット・デメリットは？（渡辺委員）
- A デメリットは特に感じていない。むしろ管理者権限がそれぞれに付されていることから、誤発信・誤共有等の人為的トラブルを防げている。
- Q 1/2 政務活動費は全体のどれほどになるのか。負担になってはいないか？
- A 政務活動費は 3 万円 x 12 ヶ月 = 36 万円/年。ポケット WiFi 2,200 円 x 12 ヶ月 = 26,400 円/年 の 1/2 で 1.34 万円/年 となっている。特に負担となるほどの金額にはなっていないと受け止めている。

Q 電子媒体の永年保管に関する課題は？

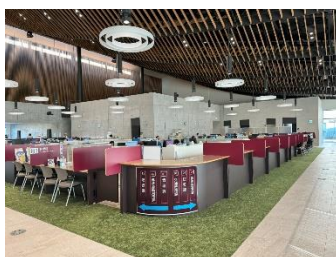
A 公文書はBlueRayに焼いているが、一定年数が経過したら焼き直す必要がある点が課題

### ■ 視察内容③：議会議事堂および庁舎内

◎ フルフラット仕様の議事堂内には、ゆったりとしたスペースの傍聴席に加え、親子ルームも併設。



◎ 庁舎内はスッキリとしたレイアウトで、吹き抜け空間が開放感を演出。



### ■ 行政視察 所感：

◎ 農業を中心に栄えてきたが、近隣の四日市や名古屋との地理的条件を活かした工業立地が進展（トヨタ車体やデンソー、太平洋セメント等）、県の北の玄関口としての広域幹線道路網が整備され、産業・文化・観光に亘る「いなべブランド」の全国発信に注力中。三重(M)・愛知(A)・岐阜(G)を結ぶ東海環状自動車道（MAG道路とも）の建設も着々と進行中。住み良さ総合ランキングでは全国99位という高い水準に位置しており、小さな自治体ながらも、「産業」と「物流」の2つの機能を有することの強みとその相乗効果を改めて痛感させられた。

◎ いなべ市議会は議会改革の更なる加速を目指し、「いなべ市議会行動計画」を策定、その実行実践を市民に対して宣言予定。

→ 11/05(日) 市民と議会のフォーラム「あなたの参加で議会が変わる」基調講演に「市民の参加で変わる住民自治」として大学教授を招き、積極

的な市民参画の働きかけを行っており、こうしたアプローチから桐生市が「学び」や「気づき」を得ることのできる部分は多岐に亘ると考える。

■ 視察成果による当局への提言または要望等：

全国各地の自治体において、タブレットを使用した議会運営が行われている。その効果として、会議資料のペーパーレス化や、事務作業の軽減化が多く報告されており、ここいなべ市においても平成 30 年 12 月の導入から以降 5 年が経過、令和 02 年 08 月のペーパーレス会議システム（SideBooks）の導入、続いて令和 02 年 10 月の議会グループウェア（Garoon）の導入と、着実なシステムの構築と移行を確認することができた。

そうした中であって、平成 31 年 3 月の新庁舎完成に先立ち、平成 29 年 10 月「いなべ市議会情報通信技術 (ICT) 推進基本計画」を策定、議会としての認識をひとつに前もっての入念な検討と予算化を進めてきた「用意周到さ」をまずもって特筆したい。今後新庁舎建設を控える桐生市にあっても、大いに参考としたい取組み内容であったと考える。

尚、「ペーパーレス会議システム」(SideBooks) による効果以上に、議会グループウェア (Garoon) によるリアルタイムでの議会全体スケジュールの共有に、効果と利便性を訴える意見が多かった点に少なからず多くの賛意を覚えた。旧来からの Fax や電話を主流としたコミュニケーションのタイムリーさの欠如や不足は殊更言及するまでもなく、ICT 技術から得られる恩恵は最大限に桐生市にあっても、躊躇することなく活用していくべきと考える。

その一方で、あえて議決に係る資料はペーパーレス化しない、といういなべ市の「こだわり」にも留意をしたい。タブレットが使えないなら「ダメ」というような環境には絶対にしないという、門戸を一気に狭めることのない柔軟な姿勢は着目すべき工夫であると同意する。

以上の点を踏まえ以降、議会改革調査特別委員会との密なる連携を図りながら、議会運営委員会としても鋭意、桐生市でのあり方を見極めていきたいと、市当局側にあっても同様の適宜・臨機応変アクションを強く要望したい。

以上